

事例1 一人一人の子どもについて話し合う「子どもを語る会」の取組について（方法①）

◆「子どもを語る会」とは、全園児の子どもについて、全職員で共通理解をしたり、多面的に捉えられるようにしたりして、一人一人の子どもについて語り合う会である。

☆全園児一人一人について、各担任から次の点について話をする。

- ・園生活に向かう様子
- ・友達とのかかわり
- ・今、成長している面、がんばっているところ
- ・支援の仕方
- ・今後に向けての課題



☆担任が一人一人の様子を話した後、さらに気になる面、気が付いたこと、よい面などをみんなです話し合う

- ・子どもがかかえている背景について話し合い、どのように支援をしていけばよいのか、他の職員の意見、考えなどを聞く。
- ・不安になり、涙が出る子どもに対して支援の仕方を一緒に考える。
- ・担任がいない場所での子どもの姿を他の職員から聞くことで、子どもの新たな面を知り、多面的に捉えることにつなげていく。



☆全職員で捉えたことを保育に活かす。気になる子どもについては、支援方法を共通にしていく。

<考察>

- ・一人一人の子どもについて、全職員で話し合うことで、新たな気づきがあったり、担任とは違う思いで子どもを見ていたりするなど色々な角度から多面的に捉えることができ、子どもを支えていく上での援助の幅が広がっていくことを感じた。また、全職員で共通理解をし、同じ思いで子どもを支えていくことも成長には欠かせないことだと思った。
- ・“子どもを語る会”を開催するにあたっては、時間的なことを工夫しながら、続けていくことを意識して今後も取り組んでいきたい。